

佛教の精神は、例会のあり方に通じる

1. 今という、この時期を大切に作る習慣・・・・・・・・人間の一生
恵まれている貴方 一度の人生に燃えよ
2. 良い習慣を身につけるには・・・・・・・・日々の心がけ
「身口意」の三業 ストレスの解消
3. イキイキした環境をつくる・・・・・・・・誰でも出来る
優しい言葉に笑顔で感謝 (言葉の力)
4. 思い通りにならない、この世のつらさ・・・・・・・・避けて通れない
四苦 (生・老・病・介護・死)、八苦
5. 心の和から人の輪ができ、人の輪から地域ができる

佛教は、因縁・因果、蒔いた種が生えるという教え

良い縁に触れる・・・縁は努力して作る

心田を耕す

因・・・色々な現象を起こす原因	この世に存在する全ての物事
縁・・・それが何かの機会や条件に会う	導く手だてや働き
果・・・様々な結果として現れる	それにふさわしい結果
報・・・必ず何かの影響を及ぼす	

宗教も、教育も、ロータリーも

「因縁・因果・蒔いた種が生える」という共通のものがある。

理論や理屈がなんぼ分かっている、実践をしなければ 何も成らない。

「家庭においても 企業においても 社会においても」

言わんロータリーにおいても同じ事である。

佛教もロータリーも、心の方向転換ができる

私が 今生きているという思い

今生かされているという感謝が

広く家族への思いやり

社会への思いやり 国家への思いやり

世界への思いやりと広がっていく

1. 「転依」てんね 転・・・転とは方向転換

依・・・依は拠り所

例えば 迷いの拠り所を、悟りの拠り所に転じる

これを、「転識得智」という

1. 人格が異なるということには、「現行、薰習、種子」が関わってくる。

1. 仏教は自業自得の教え、人間は生まれによって尊からず、自らの行為によって尊い人になる。・・・まさに「人生、心がけ」

人格の形成へと繋がる

ロータリークラブの会員から、真のロータリーアンになる